

## 視察報告

- 1 視察日時 平成 27 年 12 月 25 日（木）～26 日（金）
- 2 視察場所 沖縄県宜野湾市
- 3 視察者 同志会（平岡正人、梶山治孝、渡辺一照、神田隆彦、  
谷 恵介）

### 4 内容

沖縄県宜野湾市へ視察に行ってきました。

呉市と同じような市内に基地があり、普天間基地による影響が市民に対してどのように影響を与えている状況等を肌で感じられるように、今回の視察項目の市とさせていただきました。

まずは、那覇空港から宜野湾市に指し掛かると状況は、一変しました。宜野湾市長選が来月 24 日に投票があり、普天間飛行場の返還の在り方についてと誠に激しい選挙戦が繰り広げられていました。宜野湾市役所へ着くまでに多くの街宣車を拝見しました。

市役所へ到着し、宜野湾市議会事務局、庶務課課長 多和田真満氏と庶務課の方とお話をさせていただきました。

役所方曰く、只今、こういう状況なので議員の方も毎日の動員構成で議会に来る方もいません。

基地政策部が 2015 年 3 月に作成した「まちのど真ん中にある普天間飛行場」という冊子をいただきました。

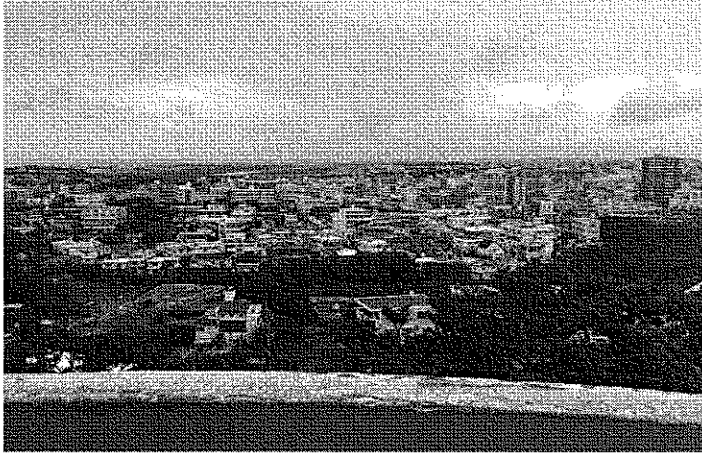
各現場を見ていただきたいと、基地の展望できる丘や隣接の学校の場所等を記した地図が配布され、現場へ行きました。

まずは、基地を展望できる希望の丘へいきました。

この公園は、嘉数高台公園といい、市の西の小高い自然林を利用して造成された公園です。沖縄戦では激戦地となり多くの犠牲者を出したと言われ、その霊を慰めるため慰霊の塔が建てられました公園内には、地球儀をイメージした展望台があり、北には、残波岬、西には慶良間諸島などが見え、市内の中では最も眺望がよい場所にあり景色は良好です。公園内には、各種遊戯などがあり、今は市民の憩いの場となっています。

また頂上に上がるために、かなり長い階段をあがり、途中には防空壕跡地

が多くありました。壕の前には、防空壕に直接被害を及ぼさないように塀がありました。そこには直接の被弾した穴が多数残されており、壮絶さがわかるようでした。



米軍の基地を持つ宜野湾市の市域面積の約25%は、普天間飛行場です。戦後70年もの間、市の中央に存在し、航空事故の危険性や騒音被害等、市民生活に大きな負担を与え続けています。市の地図を見ますと基地が、都市機能、交通体系、土地利用など効率的な街づくりを阻害し、経済活動にも多大な影響を及ぼしています。

「世界一危険な基地」と言われる意味が、現地の状況を見ればよくわかります。

現在の人口は、96000名ぐらいで、基地面積を除く人口密度は、7000名超えるようになっており、危険性は大きくなっています。

普天間基地の返還合意の原点は、「危険性の徐去」と「基地負担軽減」であり普天間基地の固定化は、してはいけないと思います。

普天間基地の面積は、480ha（東京ドーム約100個分）

年間騒音発生回数 16,731回

騒音最高値 120.6 d B

夜間騒音 92.1 d B

普天間基地の面積割合 民有地 4 3 7 h a 国有地 36 h a 市有地 7 h a

地主数 3818 人

年間賃借料 69 億 5300 万円

基地内軍人・軍属 3200 人

日本人基地従業員 208 人

同じ基地を持つ市として、レベルは違えど基地との共存の在り方など参考にできました。

